

事業実施の目的 総合的人間力を育成する「大館ふるさとキャリア教育」の理念のもと、0歳から小学校低学年までの教育・保育を充実させることにより「人間的基礎力」の育成を図る。架け橋期の遊びや学びを豊かにするための連続した「架け橋期のカリキュラム」を開発することによって、就学前教育と小学校教育の相互理解推進と、「共感的協働力」を育成する保育・授業改善の実践・検証を行う。

1. 主な取組内容について 【架け橋期のカリキュラム開発会議】

(1)開発会議のメンバー（委員11名） 保育者養成大学長1、県教育庁幼保推進課指導担当2、小学校長2、私立認定こども園長2、公立保育園長1、認可外保育施設長1、市保育行政担当者2 *事務局として、架け橋コーディネーター1、幼保小連携アドバイザー1

(2)開催頻度・会議内容 市としての方向性やコアチームによる原案・モデル地区の研究の検討・指導助言を行う。（年3回）
 ①8月24日（市としての現状の課題・架け橋期の重点・研究推進） ②1月25日（市共通版カリキュラム、モデル地区の研究経過）
 ③2月28日（モデル地区のカリキュラム、1年次の成果と課題、カリキュラム作成研修資料）

【架け橋期のカリキュラム】

- ・4歳児から小学2年生までの教育・保育の実態と課題の把握、モデル3地区による架け橋期（5歳児・小学1年生）の実践を通して、この時期の発達に必要な学びを保障するための市共通版「架け橋期のカリキュラム全体計画」、小学校区ごとの「架け橋充実期のカリキュラム全体計画」を作成。
- ・市共通版を基にしながら、学区の課題や強みを明確にし、5歳児10月～小学1年生7月までの「架け橋期に期待する子どもの姿」「共通して充実を目指す活動・体験」を中心に協議しながら作業用シートに記入した。各小学校区の特徴、各園・小学校の独自性を尊重したカリキュラムとした。

【園・小学校における体制】

(1)モデル地区に「架け橋調査研究委員会」を設置 交流や合同協議を通して、小学校区の課題・目指す姿を明確化、カリキュラムの作成を行う。
 メンバー（園：主任保育士か主幹保育教諭、5歳児担任、小学校：教務主任、1年生担任。随時管理職・コアチームが参加）

(2)開催頻度・内容 ①架け橋調査研究委員会（11～2月で、各3～5回） ②子どもの交流活動（各4～12回） ③合同授業・研究会（各6～8回）

【自治体における体制】

○市の連携体制によるコアチーム（子ども課：保育アドバイザー、教育研究所：副主幹、架け橋コーディネーター、幼保小連携アドバイザー）・・・研究推進、モデル地区への指導、市共通版カリキュラムの原案作成、研究内容の周知

2. 主な成果について

○モデル地区では、カリキュラム作成に取りかかるまでの期間に、子供同士の交流、教職員の合同研修、小学校教諭による保育体験等様々な交流が実践された。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にした協議により、教職員間の関係性や互いの教育・保育の理解が一層深まった。その上で、11～2月にカリキュラム作成に向かったことで、協議の方向性が焦点化され、課題意識や目的の共有につながった。

○近隣に位置する保育園と認定こども園であっても、なかなか互いの教育・保育を参観したり、協議したりする機会はなかった。本事業でそれぞれの園の違いや共通点に気づき、自園の教育課程や行事を見直したり、保育の環境を改善したりすることにつながった。小学校との交流も、気軽にできる方法や場面に気付くことができ、早速、実践して様々な活動での交流へと発展した。

○学区ごとの架け橋充実期のカリキュラム作成を通して、カリキュラムへの意識の高まりや幼保小の教職員間に協働性が生まれた。

○市としての取り組むべき課題（多様な育ちへの発達支援、早期から英語に親しむ環境づくり、保護者支援（メディアコントロール力向上））を加えたことにより、本調査研究に関わる教職員の幅が広がり、架け橋期の育ちの重要性の理解も広がった。

<p>事業実施地域・協力園校（R4年度）</p> <p>【協力園校】市内3小学校区をモデル地区に指定</p> <p>①公立小学校1、私立幼保連携型認定こども園2 ②公立小学校1、私立幼保連携型認定こども園1、 公設民営認可保育所1 ③公立小学校1、公設民営認可外保育施設1</p>	<p>今後の目標（R5年度）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市共通版架け橋期のカリキュラムを基にモデル地区以外の小学校区に事業を展開し、学区ごとの課題や目指す姿を明確にしてカリキュラム作成に取り組む。 ・モデル地区では、1年次に作成した「架け橋充実期のカリキュラム」を教育・保育の実践を通して検証する。 ・4年間の育ちを見通した4歳児から小学校2年生までの市共通版架け橋カリキュラム（試作）を作成する。 ・カリキュラム開発会議において、1年次に作成した架け橋期のカリキュラム、架け橋充実期のカリキュラムを検証する。
---	---------------------------	---

- A
- B
- C
- D
- E
- F

10の姿

大館市 架け橋期のカリキュラム全体計画 (5歳4月～3月)

期待される子どもの姿

★期待される子どもの姿について詳しくは「10の姿」をご覧ください。

領域	内容
健康	健康な生活を送るために必要な生活習慣を身に付け、心身の健康を維持する。
生活	生活の中で必要なことを学び、生活の場での役割を果たす。
表現	表現の場をもち、表現の楽しさや喜びを味わう。
探究	探究の場をもち、探究の楽しさや喜びを味わう。
交流	交流の場をもち、交流の楽しさや喜びを味わう。
環境	環境の場をもち、環境の楽しさや喜びを味わう。

大館市 架け橋期のカリキュラム全体計画 (1年生4月～3月)

期待される子どもの姿

★期待される子どもの姿について詳しくは「10の姿」をご覧ください。

領域	内容
健康	健康な生活を送るために必要な生活習慣を身に付け、心身の健康を維持する。
生活	生活の中で必要なことを学び、生活の場での役割を果たす。
表現	表現の場をもち、表現の楽しさや喜びを味わう。
探究	探究の場をもち、探究の楽しさや喜びを味わう。
交流	交流の場をもち、交流の楽しさや喜びを味わう。
環境	環境の場をもち、環境の楽しさや喜びを味わう。



モデル地区の
カリキュラムや作成の
手順、実際の
展開例・
交流事例を
研修資料と
して配布。

市共通版「架け橋期の
カリキュラム全体計画」
(5歳児～1年生)

- A 架け橋期に期待する
子どもの姿
- B 期のねらい
- C 育みたい資質・能力
- D 交流活動
- E 環境の構成・援助の
ポイント
- F 家庭との連携

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7

取組のねらいと目標

取組のねらいと目標

取組のねらいと目標

領域	内容
健康	健康な生活を送るために必要な生活習慣を身に付け、心身の健康を維持する。
生活	生活の中で必要なことを学び、生活の場での役割を果たす。
表現	表現の場をもち、表現の楽しさや喜びを味わう。
探究	探究の場をもち、探究の楽しさや喜びを味わう。
交流	交流の場をもち、交流の楽しさや喜びを味わう。
環境	環境の場をもち、環境の楽しさや喜びを味わう。

モデル地区「架け橋期
カリキュラム全体計画」
(5歳児10月～1年生7月)

- 1 架け橋期に期待する
子どもの姿
- 2 期のねらい
- 3 小学校区で目指す姿
- 4 共通して充実を目指す
活動・体験
- 5 行事・子どもの交流
- 6 職員の交流
- 7 環境の構成・援助の
ポイント
- 8 家庭との連携

☆小学校への適応を求めるのではなく、就学前の学びや体験の延長線上に、発達の特性に応じた学びを積み上げる。
 ☆学びの喜びや楽しさを実感できるよう子供の意欲や期待に応える保育・授業を展開する。
 ☆すべての学習の土台となる「ことば」「言語活動」における伸びしろを十分引き出す取組を大切にする。